

パターン 30 - ① 響きコード II (Zebraコード・リフ)

Verse (テーマ) & Ending (終止)

(※ Z/D# = ベース音D#のZebraコード)

Bridge (展開部)

メモ

- ①黒鍵と白鍵を意図的に共存(Zebra)させた、コード機能破壊を匂わす不協和音(現代音楽)的響き
- ②調性の曖昧な、多調性(polytonality)的アプローチ⇒ペトルシュカ(ストラヴィンスキー)など
- ③ファ・(シ)抜きペンタでの即興が合う⇒効果的にシや部分的に黒鍵を使えばメロディアスにもなる
- ④1st. Verse(1～4小節)、2nd. Verse(5～8)と考え、循環を組み立てても良いし、展開部省略も可!

〈Zebraコードの美味しい作り方!〉

- ①左手(根音)をベースの流れをイメージしつつ、ド・ファ抜きペンタ(ド・レ・ミ・ソ・ラ)で動かしてみる
- ②ベースの流れを意識しながら、右手で黒鍵盤を押さえ、良い感じの響きの3音を選ぶ
その際、ベース音(左手)と半音になる音を意図的に入れる
- ③上記①&②で出来た原型Zebraコードの全体を半音下に移調(暫定的Zebraコード)
⇒左手は黒鍵、右手はミ・シ抜きペンタ(ド・レ・ファ・ソ・ラ)となる⇒実はF調4(ソb)、7(ミ)抜き
- ④全体を4度下げ(F→C調)、移調すると
⇒左手が(ド#・レ#・ファソ#・ラ# ; C#・D#・F・G#・A#～黒鍵のF#の代わりにFを入れる)で、
右手は、ファ・シ抜きペンタトニック(ド・レ・ミ・ソ・ラ)となる⇒C調的Zebraの出来上がり!